

第2章 課題解決のための対策と方向性

ニューノーマル下における観光先進県へ

課題解決 のための対策

ウィズコロナ時代の
ニーズに即した
施策の実施

DXの活用

方向性Ⅰ

「量から質、さらに付加価値」への転換

- 「密」から「疎」
- 長期滞在化・高付加価値化
- ワークেশョン* ● マイクロツーリズム*
- 受入環境整備 ● 情報発信

- Wi-Fi整備 ● 位置情報活用
- ビッグデータ活用
- 先端技術(5G、AI、IoT等)活用
- データー一元化

方向性Ⅱ

複数ターゲット層の設定・切替

複数のターゲット層の設定



状況に応じたターゲット切替

【イメージ(一例)】



基本方針

基本計画

ワークেশョン：「ワーク」（労働）と「バケーション」（休暇）を組み合わせたもので、旅先で働きながら休暇を取得する過ごし方。

マイクロツーリズム：自宅から1時間から2時間程度で行ける、地元や近隣への短距離観光のこと。

第3章 基本方針

対策・方向性を踏まえ、3つの基本方針と12の基本計画を定めます。

基本方針Ⅰ ニューノーマルに対応した観光地づくり

ニューノーマル下における観光先進県を目指すには、「ニューノーマルに対応した観光地づくり」を進めることが重要であるため、そのための体制整備が急務です。

- ▶基本計画Ⅰ－1 県域DMO*の見直しと機能強化
- ▶基本計画Ⅰ－2 データマーケティング体制の確立
- ▶基本計画Ⅰ－3 「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくり推進
- ▶基本計画Ⅰ－4 受入環境整備

基本方針Ⅱ 新しい価値や魅力を創造・発信

観光のデジタル化を強力に進め、新たな価値の創出に繋げるほか、戦略的に発信していくことが重要です。あわせて、本県の強みを生かした魅力について、更なる磨き上げを行うなど、本県への旅行需要の喚起を継続的に行うことが求められます。

- ▶基本計画Ⅱ－1 デジタルを軸とした取組の拡充
- ▶基本計画Ⅱ－2 移住・交流・関係人口の増加に向けた取組の推進
- ▶基本計画Ⅱ－3 需要を喚起するプロモーション
- ▶基本計画Ⅱ－4 県産品販路の更なる拡大

基本方針Ⅲ ウィズコロナ時代の「変化」に柔軟に対応

現在は厳しい状況が続くインバウンド誘客について、新型コロナウイルス感染症収束後の速やかな反転攻勢に向けた取組を進めるほか、社会や観光客のニーズの変化に対応した新たな観光のスタイルの普及・定着を図っていく必要があります。

- ▶基本計画Ⅲ－1 反転攻勢のためのインバウンド対策
- ▶基本計画Ⅲ－2 マイクロツーリズムの推進
- ▶基本計画Ⅲ－3 ワークেশョンの推進
- ▶基本計画Ⅲ－4 長期滞在化・平準化の推進